

芙美子さんからの便り

北の国から



芙美子さん
住職の叔母。北海道鹿部(しかべ)町在住。
季節の写真を添えて便りを送ってくれます。

すっかりご無沙汰してます!!

「善称寺だより」、毎回、楽しんで拝見してます。様々な視点からの記事、便りの記事など参考になります。

このところの不安定な世界情勢、日本での様々な出来事には心痛みますね。人間は歴史から学び、人が大切にされる方向にはなかなかなんだなあ、と歯痒くなります。

先日、御二人に新しい命が誕生されたとの事!! 心よりお祝いの気持ちを! 新しい命は御二人だけでなく、社会全体の大切な命でもありますね。慈しんで、。

「日々のあわ」から連想したのは、私が心に刻んでる「一日一生」ということでした。この思いで日々の生活を丁寧に重ねていきたいと。

写真は、「エンレイソウ」という高山植物です。我が家の庭や近辺に咲いていて、こちらで初めて出会った花です。花を咲かす迄、ほぼ7年の歳月がかかるとか、。花の色は赤紫もあります。何とも清楚な凛とした花で、こちらの心内を見透かされそうです。自然の中で生活していると人間が中心でなく、同じ地表、同じ視線に感じます。それよりも人より逞しい生き様に圧倒される事が多々あります。自然に対して謙虚にならねば、と。こちらで学んだ事です。

どうぞお元気で!!

坊守さんの 日々のあわ

このところの朝晩の涼しさや、蟬に代わって鳴きはじめて虫の声など、ふとした時に秋の足音がひたひたと迫ってきていることに驚かされます。

2ページでご報告したとおり、7月に女の子を出産しました。臨月～出産後は外出する機会もあまりなく、かといって未知の体験が次から次へと押し寄せてくるので、緊張したり不安になったり、喜んだり感動したり、元気をもらったり疲労困憊したりしているうちに、今年の夏は「気づけば過ぎ去っていた…」という感じでした。

季節の移ろいを除いては、大人にとっての2ヶ月

はそれほど変化を感じられるものではないですが、赤ちゃんにとっての2ヶ月はなんとも劇的な変化の日々で、毎日見ても飽きません。

できることが増え、成長を感じるたびに嬉しく思いながらも、心のどこかで「いつか手を離れる日へと少しずつ近づいているのだ」という気の早すぎるセンチメンタリズムで胸がきゅんとなりながら、夫婦で楽しく切なく(?)育児に取り組んでいます。

今は日がな一日赤ちゃんにかかりきりなので、お寺のお手伝いが満足にできず、住職一人体制で奮闘してくれていますが、皆様にはご不便をおかけすることがあるかもしれません。この場を借りてお詫びいたします。新しい善称寺の一員のこと、あたたくお見守りくだされば幸甚に存じます。

お寺に女の子を授かりました



七月十四日に、女の子が生まれました。名前は夏帆(かほ)としました。生まれた時の体重は三九〇グラム超! 私たちは夫婦ともに背が高い方なので、その影響でしょうか。ともあれ、母子ともに健康でホッとしております。

住職はオムツ替えやお風呂など積極的に子育てに参加していますよ。オムツ替えの時に、噴水のように勢いよく噴射されたウンチを浴びた経験は忘れられません(笑)

毎日よく泣き、よく飲み、あまり寝ずで大変ですが、お寺のお仕事に影響しないよう、坊守と協力して参ります。皆様どうぞよろしくお願いたします。

親鸞聖人七五〇回忌大恩念法要記念出版 「クイズ浄土真宗」より出題

今回はお彼岸のクイズです。お彼岸とは馴染みのある言葉ですが、さて、その意味はいったい何なのでしょう。クイズを通して考えてみましょう。

「彼岸」の意味は?

イ、あの世

ロ、さとりの世界、浄土

ハ、幽冥界

3択問題です

彼岸に「お」をつけて、「お彼岸」とよく言われます。年二回、春分の日と秋分の日それぞれ前後一週間をそう呼ぶのですが、これは**到彼岸(とうひがん)**と**ひがん**と言って、**彼岸に到る道、すなわち仏道を実践する期間のこと**です。そこで、彼岸とはどういう意味かと言うと、「彼方(あなた)の岸」、つまり向こう岸のことです。彼岸に対して、「此方(こちら)の岸」を**此岸(しがん)**と言います。その間にあるのは「川」ということになりましたが、その



本願寺出版 1365円

川は、貪りや怒りといった煩惱を表し、此岸は迷いの世界を表します。そして、此岸から川を超えていく向こう岸の彼岸は、悟りの世界、仏さまのお浄土というわけです。したがって「到彼岸」は、悟りへ到る道を修行すること、あるいはお浄土に到る道となるお念仏を喜ばせていただく機縁にするとき、ということになるでしょう。

「あの世」は「この世」に対する言葉ですが、「死後の世界」をさしますし、「幽冥界」も「目に見えない暗い世界」のことで、やはり死後に赴く世界とされていきます。

悟りの世界やお浄土は、迷いに対して使われる言葉であり、現世に対する**死後の世界という意味ではありません**。ここはひとつ、迷いの此岸からの悟りの彼岸へ向かう人生を歩んでみませんか。(本文より)